

特集号

# 緑ネット通信 No.88

緑のネットワーク・まつど

代 表：藤田 隆  
 年会費：1000円  
 口座番号：00170-9-696174  
 連絡先：高橋盛男 090-2935-9444

都市の緑を残すためには、緑を見守り育む人のネットワークが不可欠です。私たちの活動の目的は、みどり特に樹木の保護・保全を願う人やグループと連携しその輪を広げ、豊かな生態系を保つ森を次世代に伝えることです。

ようこそ！ 森へ  
 オープンフォレスト

## 第13回 オープンフォレスト in 松戸

市内に残された貴重な森を良好な環境として存続させ、未来の子どもたちに引き継ぐため、市民に身近な森を知って楽しんでもらうこと、さらに森を守る意識や課題、活動などを理解していただく機会として、2012年より「オープンフォレスト in 松戸」を実施してきました。

今年は5月中旬の週末4日間の開催でした。10日(土)午前中と17日(土)は雨でしたが、雨もよい中森を訪ねてくださる方もあり、11日、18日の日曜日の晴れた森には、ベビーカーを押す姿や幼児連れの家族の姿が目立ちました。

参加者 986人(うち子ども 343人)とスタッフのべ 214人が、森でのひと時を過ごしました。



関さんの森では6年ぶりに「森のカフェ」を営業。“煎りたて”の豆をその場で挽き、そして注文された量だけペーパーリップで淹れる“入れたて”のコーヒー！ 森のコーヒーのお味はいかが？



さて、生まれて初めての竹ぼうくりは、うまく歩けるかな？ (野うさぎの森)

## 初日 10日の朝は雨！

公開予定だった9カ所の森のうち、午後には6つの森に少ないながらも来訪者がありました。スタッフからは「雨の森も新鮮だった」「雨の森も風情があって良かった」などの声も聞こえました。



甚左衛門の森では駅からのご案内に担当が立つが、誰も現れない…ようやく午後には3組の方が訪れ、スタンプラリー、輪投げ、工作などを楽しみました。



根木内歴史公園では、雨が上がりしてから根内小家庭教育学級の親子50名の田植え体験が行われました。



小浜屋敷の森には、午後になって大人1人と2組の親子連れがみえました。森林環境譲与税のおかげで、市が購入し貸し出されたカラフルな遊具も楽しそうでした。

## 2日目 11日は晴れました～

この日は9カ所の森がオープン、571名の方が森にやって来ました。スタッフも張り切ってご案内しました。



弓矢で遊ぶ子ども…大人だってやってみたいよね！  
(三吉の森)



森のラリーに出発！  
(大作の森)



静かな森の中、ハンモック  
でまどろむ(芋の作の森)



竹を伐って割って…  
ノコギリ体験(縄文の森)



駅から森へのご案内も  
ありました(しんやまの森)



深い森の奥では、会員によるツリークライミングのデ  
モンストレーションも行われました。(オリンポスの山)

## 3日目の 17日は終日雨！！

9つの森で公開を予定していましたが中止を余儀なくされました。溜ノ上の森ではスタッフが他の森と掛け持ちの人が多くこの日だけが公開日だったので、今年は全く実施できませんでした。甚左衛門の森では公開の2日も天候に恵まれず、残念でした。

## 最終日 18日は…

前日の雨で運動会が延期になって小学生のいる家族が来れなかったりと、影響があったようですが、この日も多くの方に森を楽しんで頂きました。

来園者を待つ  
金ヶ作野中の森



囲いやまの森には、今年デッキが登場。「見晴らしいいよ～」



スラックラインで大盛り上がり  
(みなみの森)



一本ブランコ  
うまく乗れたね  
(ハヶ崎の森)



森の工作楽しい～  
(紙敷石みやの森)

## みどりと花のフェスティバル

里山活動グループのパネル展示、ハンモック、丸太渡りなど、今年も来場者に楽しんでもらいながら里山活動を知ってもらうようにと、スタッフの皆さんで一日頑張りました。



一万を超える人出でにぎわいました

## 森に園児がやって来た

森が整備され安全に利用できるようになったことで、子どもたちを受け入れることが多くなりました。



千葉県では今「自然環境保育」を推進しています。学力だけではない「生きる力」を培うには、自然体験はとても良い効果があるのだそうです。子どもたちみんなが良い自然体験をできるようになるといいですね。

5/1, 5/29 石みやの森



5/20 しんやまの森

## 松戸のみどり再発見ツアー69 湧き水を育む台地のみどりを訪ねる

4月19日(土)八柱駅に参加者25名が集めた。朝から夏を思わせる太陽が照り付け、気温が25度超と異常に高い、出発前にひと口のどを潤しスタートした。

道は千駄堀湧水方面へ向かって下る。下から上って来る自転車は手押しモードだった。途中後ろを振り返り、高低差を確かめてもらった。さらに下りきってから、オリンポスの山を目指し登りに入った。歩みが途端に遅くなった。台地上がると八景台保育園の横に出た。正面が大作の森だ。

大作の森の「大作」は江戸時代この辺りが小金牧のころ、野馬土手で馬が外へ飛び出すのを防いだ。野馬土手のほかに柵で囲う方法で馬の飛び出しを防いでいたとのこと、大作の作はこの柵から来ているらしいとのことだ。

オリンポスの山では、嗅覚の鋭い人が「いい香りがする」と鼻をひくひくさせていた。コブシの近くで深呼吸して、森の空気を胸いっぱいため込んだ。ここではビンゴカードを使ってじっくり自分で森のしぜんを体験していただくようにした。「においのするもの」、「うさぎの耳の手触り」、「赤ちゃんの木」「ふかふかの地面」など9種類の課題を30分ほどかけて取り組んでもらった。自ら取り組む課題に最初は戸惑いながらも、やがては参加者同士教えあいながら楽しんでいた。

「どうしてオリンポスの山なのですか？」と問われ、「ギリシャ神話」にある物語をお伝えした。

次に千駄堀湧水広場に向かう。降った雨が台地上にし



み込み、谷底の南側の斜面の下から今も水が湧き出ており、池にはコイが泳ぎ、カメが甲羅干しをしていた。斜面林からヒヤリとした空気が降りて来るのも実感できた。本当に森は天然のクーラーだ。

芋の作の森では、ツアーに参加していた森の会員が森を案内してくれた。ここは松戸では希少になった野草があることで知られており、7月初めにはヤマユリがまとめて咲くそうだ。

最後に訪れたしんやまの森では平坦な地の利を生かしてブルーシートに身を沈め、ゆっくり梢から漏れる青空を眺めてもらった。

ツアーの終わりに「新しく発見できたこと」「気が付いたこと」を発表してもらった。森に立ち入ってとてもいい経験だった、木陰の気持ちよさを味わった、森に寝転んで気持ちよかった、森でビンゴゲームが出来たなど、森の良さと楽しさを感じて頂けたようだった。(藤田 隆)

### 総会の報告

代表 藤田 隆

5月6日に総会を行いました。コロナ禍が収まり、外出が自由にできる感がありますが、一方で感染症への敏感さは一層高まったかのようです。松戸市では6月7日に「みどりの愛護のつどい」が行なわれました。受賞団体を代表して松戸里やま応援団が事例発表を行い、「残された森を守る活動を継続していく」と表明しました。今年もよろしくお祈りします。



★松戸のみどり再発見ツアー（観察学習会）No.69

次号通信(9月発行予定)を再度確認ください

**予告 金ヶ作で巨木に出会い「みんなの森」で遊ぼう(仮)**

10月12日(日) 9:30~12:00~ 自由解散(小雨実施)

集合 京成線常盤平駅 改札口 9:30集合

持ち物 飲み物、雨具、お弁当(自由)

申込み・問合せ: 090-4078-3703(藤田 18時以降) その他 歩きやすい服装でどうぞ

※参加は申込制・先着30名 (10月1日より受付)